



特 59

893

妹背山

No 248

戀情無賤
貴情

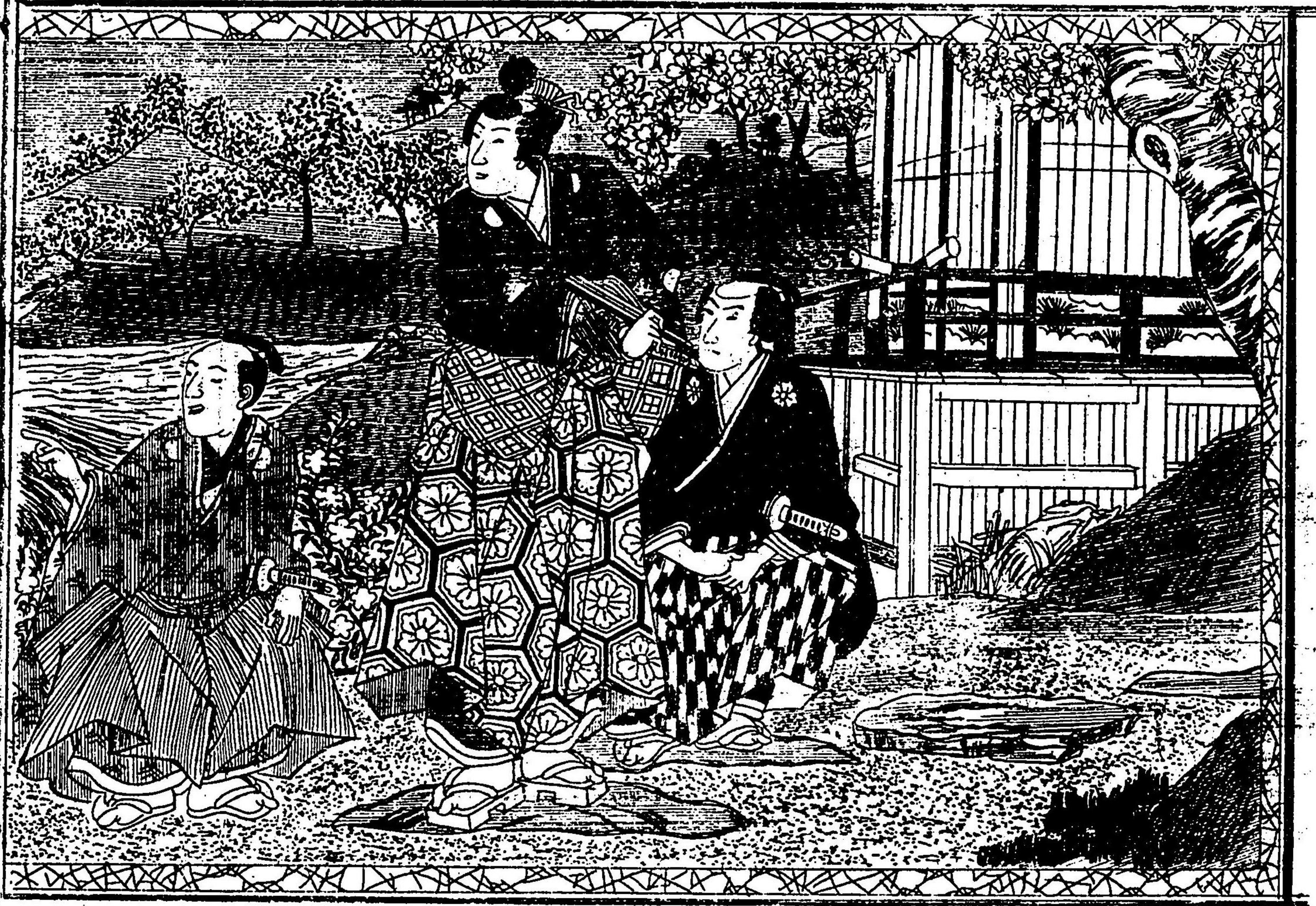


妹香





大和國
妹崎
吉野





大和國
 妹脊山
 館吉野
 川隔離
 鳥久我
 之助募



双挑夫
婦壹



妹脊

茲に曾我の英路
逆心をなれ切腹
せし其子入鹿ハ
父を勝り悪逆
にて内侍河原
入り村雲御殿
奪ひ禁中を御
王位を奪ひ惡
逆日々小三券
大職冠鎌足公を
入鹿を亡び人上
兄弟藤原淡海



去りぬる春日の
山小住居以前の
家臣檢校太郎利細
今八幡師柴六ハ羽
生の小家を借の
泊家長柴六ハ
内意を合ふ此黒の
女鹿の生血を取せし
柴六の子三作ハ父を
かろて喪殺の罪を引
受捕れぬ此柴六ハ
忠臣のため我子秋松を



赤脊



大方なす
婦の悦び
柴六夫

諸臣の事
入鹿征伐の軍議
語説入鹿大臣、惡逆日
寡り先帝の后采女の身
小懸想、大判司清盛
嫡子久我之助清舟
采女と隠せしとて死
落し切腹させ太辛の
息女雖も不嫁慕す



命三作
出で
朱御鏡
土中より先年
作を埋入せし
五日あり

天照太神(百日の祈)
満

カ
シ





赤
子

△米女と慕ひ来て
橋姫の女官等も
あぶられ嫉妬の念が怒り
言いかこの生血を笛かき
入鹿を亡す手段とあはかる所



鎌足の忠臣金輪
五郎今岡
ふくと偽名と
入鹿の館
入鹿が今
輪が



御届 明治三十年十二月十六日
 編輯兼 奥田忠兵衛 出版人

録足公教号の
 軍兵隨へん

押寄もひ
 竟入鹿を亡が
 後ハ都とありあるゆゑ

錦繪紙 色々

銅鑄小本 出全

版元

東京浅草區
 燕前森田街九番地
 奥田忠兵衛

